

グループ名 ・代表者名	ピーブルズ・プラン研究所 山口響	助成金額	20万円
連絡先など	hibikiy1976@yahoo.co.jp		
助成のテーマ	在沖米海兵隊グアム移転がグアムと北マリアナ諸島に与える影響の研究		

**【調査研究・研修の概要】**(調査研究・研修のねらい・手法・成果など)

2009年、10年の調査では、沖縄からの海兵隊グアム移転計画が現地生活や自然環境に与える悪影響の分析を中心にしていたが、2011年度の調査は、それに加え、移転計画の遅れの要因とその影響についても焦点を当てた。2011年の現地調査(通算3回目では)では、はじめて、北マリアナ諸島自治領テニアン島を訪問先に加えた(テニアンはグアムに移転される海兵隊員の訓練場として想定されており、現在、島の3分の2が米軍用地となっている)。

グアム調査では、日系の事業者に対する聞き取りを主に行い、移転事業の遅れによって、移転推進派にも依然として利益がもたらされていないことを確認した。

テニアン調査では、「米軍歓迎」の心理の内実がどのようなものかを探った。米軍増強に経済活性化の糸口を見出す意見がある一方で、米軍歓迎派の中ですら「米軍が特に使う気のない土地であるならば、返還してほしい」との感情が強いこともわかった。

米日両政府は、必要性も実現可能性も低い計画に固執しつづけることで、現地の人々の自立的な生活をさまたげている。

**【調査研究・研修の経過】**(取り組みの具体的な経過: 主要な出来事のみ)

2011年11月: テニアン島(北マリアナ自治領)、グアム島における現地調査

問題となっている場所の地図あるいは写真など  
(あれば)

**【今後の展望など】**

- ・グアムの米軍再編問題に関する書籍の刊行
- ・日本から米国への資金の流れに関する分析

会計報告書の概要 (金額単位: 千円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	成田~テニアン、グアム移動、レンタカー代、ガソリン代など	173	173		
資料費	現地紙『Marianas Variety』購読	90	27		63
機材・備品費					
会議費					
印刷費					
協力者謝礼など					
外部委託費					
その他					
合 計		263	200		63

**参考文献(ウェブサイトや書籍、成果物など)**

- ・『季刊ピーブルズ・プラン』誌上での連載 (<http://www.peoples-plan.org/jp/> から閲覧可能)



## 在沖米海兵隊グアム移転がグアムと北マリアナ諸島に与える影響の研究

山口響(ピープルズ・プラン研究所)

高木基金 2011年度成果発表会  
2012年6月10日

### 1. 海兵隊移転計画の進捗状況

- 2006年5月 再編実施のための日米のロードマップ  
沖繩に駐留する米海兵隊8000人とその家族9000人を  
グアムに移転することを決定  
費用負担割合 日本60.9億ドル、米国41.8億ドル
- 2009年2月 海兵隊グアム移転に関する日米協定
- 2009年11月 海兵隊移転等に関する環境影響  
評価書(EIS)素案
- 2011年7月 同最終案(FEIS)
- 2014年事業完了予定からの遅れを示唆

### 1. 海兵隊移転計画の進捗状況

2011年12月 米議会が2012会計年度のグアム移転予算を全面削除

2012年4月 日米両政府が再編見直しを発表  
グアム移転の規模は5000人に縮小  
北マリアナ諸島に米日共同利用の訓練施設を整備  
日本による費用負担のうち、国際協力銀行(JBIC)による融資32.9億ドルを白紙に



今後、環境アセスメントやり直しの予定  
調査着手から建設終了まで最短でも8年  
(『沖繩タイムス』電子版、2012年5月1日)

### 2. 調査の経過

#### 2009～2010年の調査

海兵隊移転の悪影響にもつぱら着目

- ①海兵隊の射撃訓練場新設に伴う土地収用
- ②空母寄港を可能にするためのアブラ湾浚渫作業でサンゴ礁の破壊
- ③生活インフラや公共サービスへの圧迫
- ④グアム観光業のイメージ低下
- ⑤犯罪・騒音・事故・渋滞の増加 など

#### 2011年の調査

- ①移転計画の遅れの要因とその帰結  
1)計画そのものの杜撰さ、2)現地社会の抵抗
- ②日本とのつながり
- ③北マリアナ諸島自治領(CNMI)に対象を拡大

### 3. グアムとテニアンについて

#### グアムの米軍基地



### 北マリアナ諸島



## テニアン島



## 4. 調査の成果

(1) グアム現地調査(2011年11月)  
——移転計画の遅れで撤退を迫られる業者

### 海兵隊移転事業と関係のある日系企業4社へのヒアリング

- ・期待感は2006～08年ごろにもっとも高い。
- ・とりわけ、不動産はここ高騰。その後値崩れし、叩き売り状態に。
- ・すでに日本に撤退した企業も多い。残っている企業も「あてが外れた」
- ・フィネガン地区(家族住宅を国際協力銀行[JBIC]融資で建設予定)の遅れがもっとも甚だしく、不透明感強い。

(1) グアム現地調査  
——さしあたりの結論

グアム移転事業という「空手形」に翻弄される事業者  
↓  
計画はいまだに誰を利する結果にもなっていない

(2) テニアン現地調査(2011年11月)  
——米軍増強への「期待半分・あきらめ半分」

テニアン島とは・・・

スペイン、ドイツ、日本、米国と統治者が変わってきた歴史  
広島・長崎の原爆をB-29に搭載した島として有名  
現在は、島の北部3分の1が米軍専用地帯、中部3分の1がリースバック地帯  
↓  
グアムへの海兵隊移転計画では、訓練場として利用される予定  
普天間基地「移設」の候補とされたことも  
↓  
現地の人々は「米軍歓迎」と報道されているが、その内実は？

米軍専用地帯はほぼ遊休化しており、通常は出入りが自由



ノース・フィールド

ラモン・デラクルーズ・テニアン市長へのインタビュー



### テニアン市長へのインタビュー

- ・「全面的な」基地の誘致が必要  
→だから普天間のテニアンへの移設が必要
- ・土地のマスタープランは民間の土地3分の1に関してのみ扱うもの。島全体のインフラに関する計画を立てようとする軍も関係してくるが、なかなかできずにいる。
- ・米軍が島を利用するのをもう30年も待っている。使わないのなら返還してほしい。

### テニアン市幹部アレン・ペレス氏へのインタビュー

- ・普天間移設に関してプレッシャーを与えるには、テニアンは小さすぎる。最終的に決めるのはトップの人間で、あくまで我々は提案ができるだけ。

↓  
米軍増強に期待しつつも、「結局また何も起こらないのではないか」という疑念  
＝「期待半分・あきらめ半分」

### では、どうやって経済を活性化させる？

1998年に営業開始した「テニアン・ダイナスティ・ホテル&カジノ」の不振

- 公共サービス改善への住民の夢は打ち碎かれる  
人口3000人で医師1人  
税務署は家賃払えず賃貸物件から撤退

→米軍増強歓迎の背景をなす



### 他方で・・・内発的経済発展への道

- ・再生可能エネルギー  
中国企業などとの協力も視野に
- ・牧畜・農業  
リースバック地帯で唯一認められた土地利用形態

しかし、島の3分の2が米軍に租借されているという根本的な制約ゆえに、住民が自発的に土地利用計画を立てられない



### (2)テニアン現地調査 ——さしあたりの結論

実現可能性に疑問のある米軍増強計画を外から持ち込むことで、地元の人々の自立がまた一歩遠のく

### 5. まとめ

海兵隊グアム移転計画の必要性、実現可能性に関する詰めた議論がまだになされていない

↓  
現地の移転歓迎派は、いつまでも見果てぬ夢を追うことに。移転賛成派・反対派のいずれをも利することのないまま、時間だけが空費される

↓  
にもかかわらず、米日両政府は、依然として、グアム移転の方針を変えず